

※質問の動画は日本共産党のHPで視聴できます。

ヒロシマの心

原爆症認定の抜本見直し、「黒い雨」の地域指定拡大、核兵器廃絶

被爆者の声 安倍政権に突き付ける



衆院予算委員会で質問する大平議員

日本共産党

衆院予算委員会で

大平喜信

衆院議員

が初質問

日本共産党の大平喜信衆院議員（比例・中国）は3月5日、衆院予算委員会で初質問に立ち、原爆症認定の抜本見直し、「黒い雨」の指定地域拡大を求め、核兵器廃絶への政府の姿勢をただしました。

被爆70年、時間とのたたかい

大平議員は、原爆症認定集団訴訟で原告勝訴が相次ぎ、被爆者団体との間に集団訴訟の終結に関する確認書が交わされた2009年当時の「被爆者の方々が一人でも多く迅速に認定されるよう努力する」という政府の姿勢が、現在の安倍政権に引き継がれていることを菅官房長官に確認したうえで、過去10年の認定状況を示し「今なお抜本的な解決に結びつかず、依然多くの方が却下され、ふたたび訴訟を起こすことになっている」と指摘。「（新基準で）認定状況は大きく改善している」とする塩崎厚労大臣に対して、今年1月の大阪地裁判決を示し「新しい審査基準

にしてもなお、

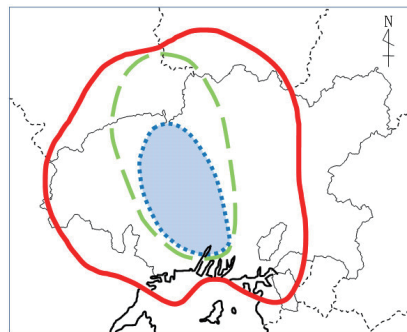
司法判断と行

政認定の大きな乖離が埋まらない。被爆70年の節目の年に決着がつけられるよう、認定基準の抜本的な見直しを」と迫りました。

「黒い雨」問題では、現在の健康診断特例地域の約6倍の地域で、「黒い雨」が降ったと結論付けた広島市と県の大規模な調査とそれに基づく指定地域拡大の要望に対し「被爆地域の拡大をおこなう科学的、合理的根拠は得られなかった」とする政府の検討結果を、被爆者の証言や地裁判決などを示して批判し、指定地域拡大を求めました。

ふたたび被爆者つくるな

続いて、昨年12月の国際会議で日本の佐野軍縮代表部大使が核兵器使用を前提にした発言をおこなった問題で「被爆国の大使として絶対に許されない発言だ」と追及。岸田外務大臣は「まことに遺憾なこと」などと答えました。大平議員は、「『ふたたび被爆者をつくるな』は被爆者の命をかけた訴えだ」と述べ、核兵器廃絶への決意を表明しました。



広島市など調査の「黒い雨」降雨図